

国際化学肥料ニュース（2024 年 12 月）

肥料業界の 2024 年 12 月動態

＊ 中国窒素肥料工業協会のデータによれば、中国 2024 年 1～9 月のアンモニア生産量が前年同期より 5.9%増の 5,309.6 万トン、窒素肥料生産量（N 換算）が 7.1%増の 3,592 万トン、尿素生産量（実物量）が 7.3%増の 5,016.7 万トン。一方、1～9 月の窒素消費量（N 換算）が 11%増の 3,217.5 万トン、尿素消費量が（実物量）が 13.7%増の 4,992 万トン。

輸出では 1～9 月の尿素輸出量が 91%減の 25.38 万トン、硫安輸出量が 20%増の 1,176.17 万トン、塩安輸出量が 121%増の 110.71 万トン。10 月 29 日現在の尿素メーカー在庫量が 111.41 万トン、前年同期より 79.34 万トン多く在庫している。化成肥料メーカーや商社、販売店などの在庫を含むと、在庫量が 250～300 万トンに達する見込みである。

2024 年下半期（7～12 月）に新規アンモニア 150 万トン、尿素 324 万トンの生産能力が完成・稼働される一方、2025 年にさらにアンモニア 90 万トンと尿素 115 万トンの新規生産能力が完成・稼働される見通しである。

＊ 12 月第 1 週（2～8 日）の尿素国際相場は反転した。これは 12 月にインドが再度尿素国際入札を行う噂があり、中東尿素の FOB 価格が 340～345 ドル／トンに若干上がり、ロシア産尿素も FOB330～335 ドル／トンに急騰した。エジプト産大粒尿素は EU 向けの輸出が活発となり、FOB 価格が 355～360 ドル／トンから 370～375 ドル／トンに大幅上がった。ただし、イラン尿素が依然 FOB285～295 ドル／トン、ナイジェリア大粒尿素の FOB も 315～325 ドル／トンで最安値を維持している。一方、東南アジアブルネイの BFI 社は FOB335 ドル／トンでオーストラリアに 3 万トン大粒尿素を販売した。

一方、買手側はエチオピアの EABC 社は 80 万トン尿素の国際入札を発表し、12 月 23 日締切りと開札する。南米市場に活気が戻り、CFR ブラジルが 330～340 ドル／トン、CFR アルゼンチンが 360～365 ドル／トンに上がった。メキシコの Tepeyac 社が入札を行い、応札価格が CFR380 ドル／トンに上がったとの噂である。

＊ 12 月 9 日、インド NFL 社は尿素国際入札を発表した。12 月 19 日締切り、翌 20 日開札、2025 年 2 月 10 日まで船積みという条件で西海岸 100 万トン、東海岸 50 万トンの計 150 万トンを購入する内容である。これは 2024 年インド 6 回目の尿素国際入札で

ある。すでに行った 5 回の入札で計 420 万トン尿素を購入した。なお、2023 年インドの尿素国際入札が 5 回で、計 560 万トンを購入した。

＊ イスラエルの ICL 社は中国と 2025～2027 年塩化加里輸入基本契約を締結した。3 年間に中国に 250 万トン塩化加里を輸出し、さらに 96 万トンを追加供給するオプションも付けている。輸出時の CFR 価格はその時の市場価格と一致するという。

＊ 12 月 11 日バングラデシュ政府は 2024～2025 年度に国営企業による 13 万トン化学肥料の輸入に外貨支出を許可した。その内訳は BCIC（バングラデシュ化学工業社）がサウジアラビアの SABIC 社から CFR342.33 ドル／トンで 3 万トン尿素、BADC（バングラデシュ農業発展社）がロシアの JSC 社から CFR289.75 ドル／トンで 3 万トンりん酸肥料、モロッコの OCP 社から CFR584.75 ドル／トンで 4 万トン DAP、CFR423.50 ドル／トンで 3 万トン重過石を輸入する。

＊ 12 月第 2 週（9～15 日）の尿素国際相場はインド NFL 社の尿素国際入札により引き続き好調が維持されている。東半球では、中東尿素の FOB 価格が 345～355 ドル／トンに上がり、イラン尿素は天然ガス不足で稼働率が 30%までに落ちて、FOB 価格が 310 ドル／トンに上昇した。東南アジア産尿素は高値で売り出したが、興味を示すバイヤーがほとんどいない模様。

西半球では、インドの尿素入札が公表されてから北アフリカの尿素価格が 1 日だけでトン当たり 12 ドルも上がった。エジプト産大粒尿素の FOB 価格が 380 ドル／トン台に回復して、ロシア産尿素も FOB 価格が 345 ドル／トンに大幅上昇した。南米の CFR ブラジルが 350～355 ドル／トン、アメリカの FOB Nola 港も 330 ドル／トンに上昇した。

＊ 12 月第 2 週の中国尿素の国内工場出荷価格が数年ぶりに 1700 人民元（約 236 ドル）／トン未満に下がった。昨年同期の工場出荷価格が 2300 人民元（約 330 ドル）以上で、1 年間で 30%ほど安くなった。その主な原因は今年 1 月から中国政府が尿素輸出を厳しい規制をかけることである。2024 年中国新規尿素プラントの完成と稼働により、1 日当たりの尿素生産量が 18～19 万トンに上がり、1～10 月の生産量が 8.5%増の 5475 万トンに達したが、逆に 1～10 月の輸出量が 92.4%減の 26 万トンしかない。輸出という捌き口を失った結果、国内尿素がだぶつき、11 月末現在の尿素メーカー在庫量が 143.24 万トン、流通在庫を加えると、300～400 万トンを超えたと推定される。来年も尿素輸出規制を解消しない限り、市場低迷が続くだろう。

* 中国税関の速報によれば、2024 年 11 月の中国化学肥料輸出量が 0.9%減の 337 万トン、その内訳は尿素が 99.9%減の 670 トンしかなく、硫酸が 20.3%増の 184 万トン、新記録である。DAP が 3.2%減の 60 万トン、MAP が 9.1%減の 20 万トン。

一方、11 月の化学肥料輸入量が 9.5%減の 114 万トン、その内訳は塩化加里が 10.5%減の 114 万トン、NPK 化成肥料が 37.5%増の 11 万トン。

* 12 月第 3 週（16～22 日）の尿素国際相場はインドとエチオピアの尿素国際入札により、3 週連続上昇されている。EU の確実な需要によりエジプトは FOB385～393 ドル／トンで 5 万トン以上の輸出を契約したため、FCA フランスの価格が 395～405 ユーロ／トンに小幅上昇した。ナイジェリアの Dangote 社は FOB345～350 ドル／トンで 3 件の大粒尿素を販売し、インドネシア産大粒尿素的の FOB 価格も 360 ドル／トンを要求している。11 月末価格反転する前に比べて、3 週間でトン当たりの FOB 価格はロシア産尿素が 10 ドル、インドネシア産大粒尿素が 18 ドル、エジプト産大粒尿素が 24 ドル、ナイジェリア産大粒尿素が 25 ドルも上昇した。

* 12 月 23 日に開札されたインド NFL 社の尿素国際入札は 21 社が応札して、応札数量が東海岸 140.955 万トン、西海岸 118.715 万トンの合計 259.67 万トン、最低応札価格が CFR 東海岸 299 ドル／トン、CFR 西海岸 369.75 ドル／トンである。CFR 東海岸が 300 ドル未満という安値の応札は予想外である。

* 中国税関の速報によれば、11 月の DAP 輸出量が前年同期より 2.8%減の 58.84 万トンであったが、10 月より 29.9%増である。それにより、中国政府は国内供給を最重要視して、12 月から輸出「法定検査」の新規申請受付を一時停止している。

また、インドとの関係悪化で、11 月インド向けの中国 DAP 輸出が停止した。その代わりにインド隣国のバングラデシュに 23 万トン、パキスタンに 9 万トンを輸出して、11 月輸出量の 53.5%を占める。

* 2024 年 12 月末の中国国内尿素工場出荷価格が 10 年ぶりに 1600 人民元（約 220 ドル）／トン以下に下がった。その原因は国内新規生産能力の大幅増加と輸出に対する厳しい規制である。2024 年に 407 万トンの尿素生産能力が増加し、年末の全体生産能力が 2023 年末より 5.8%増の 7372 万トンになった。2025 年にさらに 380 万トン新規生産能力の増加が予定され、2025 年末の尿素生産能力が 7752 万トンに達する見込みである。それに伴い、2024 年の尿素実生産量が 6600 万トンと予測され、2023 年より 300 万トン以上を増える一方、2024 年 1～11 月の尿素輸出量が 26 万トンしかなく、12 月

輸出量を加えても 30 万トン未満だろう。12 月 26 日現在の中国尿素メーカー在庫量が 152.3 万トン、流通在庫を加えると、400 万トンを超えると予測される。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * ポーランドの Grupa Azoty 社は Pulawy 工場に硝酸設備の第 5 生産ラインが完成し稼働し始めたと発表した。第 5 ラインは、3 億ズウォティ（約 7500 万ドル）を投資して、最新技術と設備を導入して、1 日 1000 トン硝酸（酸濃度 100%換算）の生産能力を有し、アンモニア使用量 3%、電力 26%、蒸気 18%を削減することができる。第 5 硝酸ラインの稼働開始により、高品質の硝酸系肥料の生産能力拡大に役立つという。
- * アフリカザンビアの首都 Lusaka 市に建設中の尿素プロジェクトは順調に進捗し、最難関の石炭ガス炉の据付が完了した。このプロジェクトは中国一帯一路の援助項目の一つで、年間生産能力 18 万トンアンモニアと 30 万トン尿素、総投資額 6 億ドル、2025 年末完成・稼働する予定である。

その他

- * ノルウェーの Yara 社はブラジルで初めて再生可能なバイオメタンからアンモニアを生産することが成功して、すでに最初の低炭素肥料を顧客に納品したと発表した。
サトウキビの廃棄物から作ったバイオメタンは、天然ガスをシームレスに置き換えることができ、温室効果ガスの排出量を最大 75% 削減する。ブラジルのサンパウロ州 Cubatão 市にある Yara 工業団地は、すでにバイオメタンを原料とするアンモニア生産設備が完全に整っているという。
- * マレーシアの Gentari 社はインドに約 2400MWp の再生可能エネルギー容量（太陽光と風力）を設置し、それを 350MW / 2100MWh のエネルギー貯蔵と統合して、AMG アンモニアの今後のグリーンアンモニア施設にグリーン電力を供給することを発表した。
AMG アンモニアは、世界最大級のグリーンアンモニアプラットフォームを開発しており、2030 年までに年間 500 万トングリーンアンモニアを生産し、インドと OECD 市場に販売する。この生産量は、年間約 100 万トングリーン水素に相当し、インドのグリーン水素生産目標の 5 分の 1、およびヨーロッパのグリーン水素輸入目標の 10% を占める。AMG アンモニアはインドのアーンドラ プラデーシュ州カキナダにある初の 100 万トン グリーンアンモニアプロジェクトの最終投資決定 (FID) を決定した。

- * アメリカの BioConsortia 社はニュージーランドの Hodder and Taylors Ltd (H&T 社) と商業契約を締結し、ニュージーランドで窒素固定微生物の種子処理を開始することを発表した。H&T 社は 2024～2025 年度に BioConsortia 社の FixiN 33 微生物種子処理剤を導入して、トウモロコシとアブラナ科の野菜および穀類の種子にコーティングしてから販売し、ニュージーランドの農家に肥料効率の向上と養分流失の削減、環境への影響軽減に役立つという。
- * ベトナムは輸入化学肥料に 5%の輸入関税を徴収することを考えている。主な目的は中国からの廉価化学肥料から国内化学肥料産業を保護することである。例として 2023 年のベトナム尿素生産能力 240 万トン、国内消費量 180 万トンしかないが、廉価の中国尿素も国内市場を侵食しているという。
- * アメリカニューヨーク州立大学バッファロー校の研究チームが電気化学装置を使ってアンモニアを合成する手法を開発した。その研究チームは空気中の窒素が雷により硝酸化合物に変換されることに着眼して、プラズマを利用して空気中の窒素を硝酸化合物に変換してから銅-パラジウム触媒によりさらにアンモニアに変換される。実験装置では常温常圧の環境に 2 アンペアの電流で 1 時間あたりに 81.2mg のアンモニアを合成することができる。装置の正常稼働時間が 1000 時間を超えるという。論文はすでに米国化学会誌に発表された。
- * 中国税関は肥料の不正輸出を防ぐために 2025 年 1 月 1 日から税番 31051000 の規則を一部改正した。改正前に「タブレット状その他これに類する形状にし、又は容器ともの **1 個**の重量が 10 キログラム以下に包装したもの」であったが、「タブレット状その他これに類する形状にし、又は容器ともの **1 件**の重量が 10 キログラム以下に包装したもの」に改正した。すなわち、改正前は 1 袋 10kg 未満であれば、税番 31051000 に適用できるが、改正後は 1 件（パレット 1 枚またはフレコン 1 袋の荷物）10kg 未満である場合しか適用されない。
その理由は 2021 年 11 月以降、中国政府の肥料輸出規制に対応して、「法定検査」が緩い 1 袋 10kg 未満の小袋包装の輸出が急増した。2024 年 1～11 月の税番 31051000 に適用する小袋包装の化学肥料輸出量すでに 50 万トンに達した。その抜け道を塞ぐために税番条文を改正した。